

## 魚躬さんの思い出

魚躬さんとの最初の出会いは、私が榊ミヨシ（当時は三好商会）に入社した時です。S49年4月から八ヶ岳農場での勤務が決まっています、3月にアルバイトとして新宿区百人町にある事務所（兼作業場など）へ行きました。とにかく声の大きい人で、小柄な体のどこからこんな声が出るのかと思えるほどで、遠く姿が見えないところでもすぐにわかりました。さばさばしていて気さく、細かい心づかいが自然に出てくる人でした。近くにいると安心感がありました。名前も珍しく、未だに御家族以外で同じ名前の人に会ったことがありません。

### 種苗業界の基礎作りなど数々の業績

業績に関しては語りつくせないほどで、多くの記録もあり、皆さんの記憶にも深く刻まれていることと申します。同窓の小田善一郎さんをはじめ、私よりくわしい方が多くおられます。また、S29年卒の萩原純一さん（2007年に花葉会賞受賞）とは、親戚関係にあります。魚躬さんはS23年卒業で、翌24年には三好商会が設立され、三好鞆男社長の手となり足となり、今日の花業界、種苗業界の土台を築き上げてきました。

サカタのタネの岩佐さんや第一園芸の岩井さんとの連携や協力も大きかったと思います。

花葉18号（1999年）には、「株式会社ミヨシ創立50年を迎えて」と題しての寄稿があり、1989年には花葉会賞を受賞され、講演もされました。もちろん、これ以外の記事になっていないことも数多くあります。

榊ミヨシ専務として采配をふるい、一時期は八ヶ岳農場にも滞在していました。（写真はその当時の社員旅行の一コマです）



前列中央が魚躬氏

葉山でも栽培試験をしていて、私もずいぶんお供しました。本や雑誌にも執筆されていて、朝日の園芸百科では、いっしょに原稿を書いたものです。近年では、園芸通信に家庭菜園について、いろいろと記事を書かれています。

### 強さと弱さ

包みかくさず、ずばっと切りこむ話し方には、道を切り開いていく力強さを感じられました。そんな魚躬さんにも弱さというか劣等感もあったようで、人間なのであたりまえなのですが、糖尿病と闘い、そして英語が苦手なこと、車の免許を持っていないことなど、ずい分と気にしていて、時折ポロッと口にすることもありました。暖か味にあふれ、助言や激励は多いのですが、怒るということはほとんどなかったと思います。叱り方の達人とも言えるほどです。一度、苗を鹿沼土に植えておいてくれと言われた時、いいかげんにそのへんにあったパーライトに植えたときは、あとで怒られました。

### 多くの達人として

声の達人、家庭菜園の達人として知られていますが、他にも文章の達人であり、荷造り梱包の達人でもありました。仕事の速さ、正確さ、作業の手際など、上手というものを超えて美しいという言葉が合うほどでした。

文章に関しては、榊ミヨシの古いカタログを見るとよくわかります。魚躬さん独特の語りかけるような個性の強いもので、多くの人に影響を与えたことと思います。私も現在、雑誌などの原稿を書きますが、魚躬さんの影響が大きいなどよく感じます。

現在、榊ミヨシは65周年をむかえています。社長は三代目であり、100周年に向けて新たな展開をくり広げています。仕事をしていると、今にも後ろから「ガンバレよ！」という魚躬さんの声が聞こえてきそうです。

ご冥福をお祈りいたします。

小黒 晃 拝（昭和49年卒）